R7 楡木小学校　学校通信
No.１６
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年７月１８日
文責　余宮

１学期の節目を迎えるにあたり、保護者の皆様には大変感謝申し上げます。

それでも考え続けることをやめない

あんなに涼しげな春から始まった１学期。そして、なんと連日の猛暑日が続く暑さに変わった１学期。毎日の変化は小さいけれど、本当に大きな変化があった１学期。

楡木っ子たちは、まさに自らの高みを目指して学び浸り、驚くほどの変化（≒成長）を私たちに見せてくれました。

特に、朝遊びの再開はうれしい変化でした。昨年度は朝遊びの良さを語りつつ、そのことによるデメリットを鑑み、あえて「再開しない」という決断を下した子どもたち。本年度は、昨年度の素晴らしい失敗をもとに、検討を重ね、今日までの２週間お試し期間を経て、２学期の本格再開へとつなげることができました。(詳しい経緯は令和６年度（学校通信 No31「お試し期間という民主主義」も参照してください。)

何よりも、その思考態度に驚かされます。

こんな心理学の問題があるそうです。

これから提示する３つの数の並びを見て、その順序に隠されたシンプルなパターンを見抜いてほしい、という問題です。さあ、その３つの数を以下に示します。

２　４　６

ここで、チャンスタイム。今、頭の中に思い浮かんだパターンを試すことができます。ご自身の頭の中に在るパターンを満たす数の並びを、私に告げてみてください。その並びの正誤はきちんと伝えますね。（紙面の都合で、架空の回答者「かなさん」を設定しています。ぜひ、かなさんになぞらえて皆さんもご一考を）

４　６　８

なるほど。かなさん、その並び・・・・・・・・・・大正解です！もうお分かりですよね。

さあ、この数の並びのパターン、かなさんの答えはいかに！？

「２ずつ増えていく偶数」です。・・・・・・・・・・ざんね～ん。間違いですね～。

「じゃあ、３　５　７も正解ですか？？」・・・・・そうですよ。正解パターンです。

「え…２ずつ増えていく数？？？」・・・・・・・・・またまたざんね～ん。間違い。

「えっ、違うんですか。だったらなんなんだ((怒！)」

ちょっと混乱してしまいますね。ここまで、自分の考えが間違っている、と考えてみた人は少なかったのではないでしょうか。もちろん私も、同じく自分の考えに疑いをもっていません。だから、「合っている」パターンが際立つ例しか、頭の中には浮かばない。

このような思考の様態を、確証バイアスと呼ぶそうです。簡単に言うと、人は「自分が信じているものの裏付けを得ようとする」思考に陥り、そこにある落とし穴に気づきにくい、というのです。（参考：アン・ウーキョン著「思考の穴」ダイアモンド社）

なるほど、納得。

では、こんな時にはどうすればいいのか。アン氏は「反証を試みるべきだ」と述べます。具体的には、自分の仮説の反証となる次のような数を出題者に提示する必要があります。

１３　１２　４

そう、これは間違い。そして、４　１２　１３と逆にすると大正解です。

もうお分かりですね。この数の並びのパターンは「前の数より大きければ何でもいい」ですね。（苛立つお気持ちはよくわかります。私も最初はやられました…）

この確証バイアスを破ることは、どんな人にもとても難しいことです。しかし、我が楡木っ子は、いとも簡単に自分たちの反証を用い、何が大切かの本質を見抜き、そして朝遊びを再開させました。やはり、天晴です。さすが、我が探究人（たんきゅうびと）ですね。

いよいよ夏休み。安全安心をモットーに、さらなる個々の探究がとても楽しみな夏休みです。